

## 「油を注ぐ」

ヨハネの手紙第一

2:18~29

### はじめに

日本のことわざに「火に油を注ぐ」というものがありますが、これは感情や行動をより勢いづかせることを意味しますが、主に悪い状況をさらに悪化させることを表現して用いられています。一方聖書にも「油を注ぐ、塗る」という言動、表現が度々記されています。しかし火には注ぎません。では何に注ぐのでしょうか。今日はそのようなテーマを持って、聖書が示す「油を注ぐ」ことの意味を考えながら、ヨハネの手紙を読み進んでいきたいと思います。

### 1. キリスト

【新改訳改訂第3版】

I ヨハネ

2:18 小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今は終わりの時であることがわかります。

「反キリスト」。偽キリスト、偽メシアとも呼ばれる存在についてヨハネは述べています。「反キリスト」とは、その名の通りキリストに反対、反抗、反逆する者、またキリストの偽物、キリストと同じようなことをして人を騙す者という意味を持つ存在ですが、この存在を理解するにはまず本物の「キリスト」とは何か、どのような存在であるのかを理解しなければなりません。なぜならどんな物事でも、まず本物を知っていなければ、それが本物か偽物かどうかを見抜く、判別することなどできないからです。ですからここで偽物「反キリスト」について述べる前に、本物の「キリスト」とは何かということについて、聖書からはっきりと定義しておきたいと思います。

「キリスト」とは、ギリシャ語のクリストス(Χριστός)の音訳ですが、これは「油注がれた者」という意味です。そしてヘブル語ではメシア、正確にはマーシャハ(מָשִׁיחַ)と言い、「油を塗る、注ぐ」という意味の動詞マーシャハ(מָשַׁח)からできた言葉です。ではこの「油を注ぐ」とは一体どのような意味なのでしょう。その本来の意味を探ってみたいと思います。このマーシャハが聖書で初めて使われた箇所を見ましょう。創世記 31:13 です。

【新改訳改訂第3版】

創世記

31:11 そして神の使いが夢の中で私に言われた。『ヤコブよ。』私は『はい』と答えた。

31:13 わたしはベテルの神。あなたはそこで、石の柱に油をそそぎ、わたしに誓願を立てたのだ。さあ、立って、この土地を出て、あなたの生まれた国に帰りなさい。』

これはアブラハムの子イサクの子、ヤコブが見た夢の中で、彼に告げられた神からのメッセージです。ここで神はご自身を指して「わたしはベテルの神」と呼んでおられます。これはベテルという名前の神というのではなく、ベテルという場所において、かつてヤコブの前に現れた神という意味です。この時ヤコブは、自分の命を狙う兄のエサウから逃れるため、故郷を離れていました。その故郷を離れる際、彼はルズ、後のベテルという地に立ち寄り、そこで一夜を過ごします。その時の様子が創世記 28:11~22 に描かれています。

【新改訳改訂第3版】

創世記

28:11 ある所に着いたとき、ちょうど日が沈んだので、そこで一夜を明かすことにした。彼はその所の石の一つを取り、それを枕にして、その場所で横になった。

28:12 そのうちに、彼は夢を見た。見よ。一つのはしごが地に向けて立てられている。その頂は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしている。

28:13 そして、見よ。【主】が彼のかたわらに立っておられた。そして仰せられた。「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】

である。わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える。

28:14 あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西、東、北、南へと広がり、地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。

28:15 見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

28:16 ヤコブは眠りからさめて、「まことに【主】がこの所におられるのに、私はそれを知らなかった」と言った。

28:17 彼は恐れおののいて、また言った。「この場所は、なんとおそれおおいことだろう。こここそ神の家にほかならない。ここは天の門だ。」

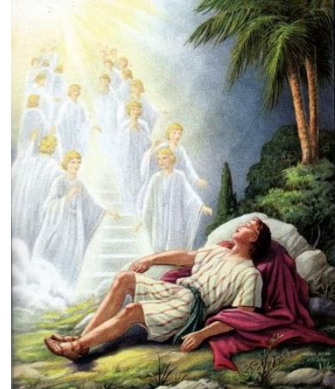
28:18 翌朝早く、ヤコブは自分が枕にした石を取り、それを石の柱として立て、その上に油をそそいだ。

28:19 そして、その場所の名をベテルと呼んだ。しかし、その町の名は、以前はルズであった。

28:20 それからヤコブは誓願を立てて言った。「神が私とともにおられ、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る着物を賜り、

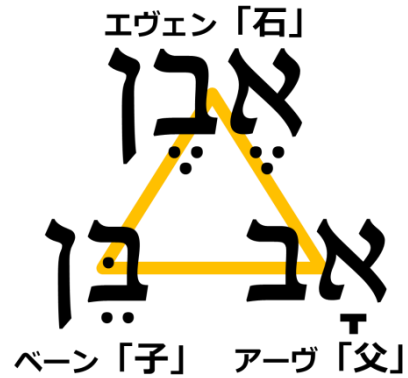
28:21 無事に父の家に帰らせてくださり、こうして【主】が私の神となられるなら、

28:22 石の柱として立てたこの石は神の家となり、すべてあなたが私に賜る物の十分の一を必ずささげます。」



このように神はヤコブに現れ、かつて彼の祖父アブラハム、そして父イサクにも告げられたものと同じ約束、すなわち「あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西、

東、北、南へと広がり、地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。」ことを告げられます。夢から覚めたヤコブは、枕にしていた石を柱のようにして立て、これに「油を注いで」その場所を「神の家」、ヘブル語でベテル(בֵּית־אֵל)と呼びました。ですから「わたしはベテルの神」とは、ベテルすなわち「神の家」においてアブラハム、イサク、そしてヤコブの子孫に告げられた約束を果たす神という意味が込められていると考えられます。そしてここでヤコブは人でも他の生き物にでもなく、「石」に油を注ぎました。この「石」は日本語ではただの石ですが、ヘブル語ではエヴェン(אֶבֶן)と言ひ、「父」を意味するアーヴ(אָב)と、「子、息子」を意味するベーン(בֶּן)が組み合わさった言葉であると考えられ、つまり父なる神と、御子イエシュアが一つとなって「神の家」を建てられることが指し示されていると考えられます。ヤコブはこの「神の家」を思い、「こうして【主】が私の神となられる」と言ひ、「石」エヴェンに「油を注いだ」のです。このように「油を注ぐ」とは本来、①ベテルに象徴された「神の家」と、②「石」に象徴された、「神の家」を建てられる「父」なる神と「子」なるイエシュアを指し示すものであり、そしてその「神の家」とは、③アブラハム、イサク、ヤコブの子孫たちが故郷に帰り、そして「地のちりのように多くなり、あなたは、西、東、北、南へと広がり、地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。」という神の約束が果たされる、成就することを指し示すものであると考えられます。つまりキリストすなわちメシア「油注がれた者」とは、アブラハム、イサク、ヤコブとその子孫、すなわちイスラエルの民、ユダヤ人とも呼ばれる人々を用いて果たされる約束、成し遂げられる「神の家、神の国、御国」のご計画を指し示す者、そしてそれを成就、完成する者という意味であると考えられます。



## 2. 反キリスト

以上がキリストについての定義です。これに反対、反抗、反逆する者が「反キリスト」だと言えます。先ほどヤコブが石に油を注いだ場所をベテルと呼んだことを述べましたが、ここは以前はルズ(לֹז)と呼ばれていました。このルズとはヘブル語で「反らす、曲がった、ひねくれた」という意味で、まさに神のお約束、ご計画を曲げ、歪めようとする偽メシア「反キリスト」を指していると考えられます。ちなみに偽物とは本物に似せて作られた「似せ物」という意味であり、本物をよく知っていなければ見分けがつかず、騙されてしまいます。つまり「反キリスト、偽メシア」とは見分けが難しいほどにキリストに似ている、メシアに近い姿、言動を持つ存在だということです。ヨハネは次の箇所反キリストは「彼らは私たちの中」にいた、つまり以前は仲間のような存在だったと述べています。

2:19 彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうなのは、彼らがみな私たちの仲間でなかったことが明らかにされるためなのです。

このように「反キリスト」とは、神を信じない者、他の神々を信じる者として私たちの外からやってくる存在ではなく、内側からすなわち私たち教会とクリスチャンの中から現れる存在だということです。です

から「反キリスト」は神のことも聖書のことも、そして私たち教会のこともよく知っています。その上で神と神のご計画に逆らおうとするのです。このような存在に対してヨハネは「彼らは…もともと私たちの仲間ではなかった」と述べています。その真実が「明らかにされる」時、それが冒頭の2:18でヨハネが述べた「終わりの時」であり、それは「反キリスト」が神と教会に逆らって立ち、その信者たちを惑わせたり迫害したりするという時というだけでなく、教会の中において、本物の信者と偽物の信者「反キリスト」とがはっきりと分けられ、それが明らかにされる時であると言えます。

### 3. 知識と真理

2:20 あなたがたには聖なる方からのそそぎの油があるので、だれでも知識を持っています。

「あなたがた」すなわち「反キリスト」でない者には、「聖なる方」すなわち神から「注ぎの油」が与えられていることが記されています。先に述べたように「キリスト、メシア」とは「油注がれた者」という意味であり、その注がれた油とは、イスラエルの民、ユダヤ人に与えられた、父なる神と御子イエシュアとが「神の家」を建てるというお約束、ご計画を指し示すものです。この神のご計画を、ヨハネは「知識」と呼んでいるのだと考えられます。

2:21 このように書いて来たのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知っているからであり、また、偽りはすべて真理から出てはいないからです。

先の「あなたがたは…知識を持っています」が、ここでは「あなたがたが…・真理を知っている」と言い換えられていると考えられます。これは聖書の随所に見られる表現方法で、先に述べた事柄について、別の言葉を用い、言い換えて同じ事柄について再度述べ、その事柄をより強調する、際立たせるものです。そしてここでは「知識を持つ」、「真理を知る」ことが、「聖なる方からの注ぎの油」すなわち「油注がれた者」であるキリスト、メシアによるものであることを強調しようとしているのだと考えられます。この「知識」とはすなわち、物事の成り立ちと仕組み、そしてそれがもたらす結果を指し示す情報のことであり、また「真理」とは、決して変わることはない絶対のものであり、そのどちらもが「油を注ぐ」という意味のヘブル語マーシャハが初めて使われた箇所を示された「神の家」という名のご計画とその完成を指し示していると言えます。すなわち神はご自分の家である「神の国、御国」を建てることをご計画され、この世界を創造し、そしてこれを完成させるために自然宇宙及び全ての人類の歴史を動かしておられるということを知る、信じることが「知識」であり、そしてこの神のご計画は、誰に妨げられることも揺るがされることもない、変わることもない絶対の「真理」であり、神はご自分がお立てになったご計画を、一つも違わず、全て必ず成し遂げられるということであると考えられます。

### 4. 神のご計画

2:22 偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。

2:23 だれでも御子を否認する者は、御父を持たず、御子を告白する者は、御父をも持っています。

ここでも先の言い換えによる強調表現がなされています。すなわち「イエスがキリストであることを否定する者」が「御父と御子を否認する者」に言い換えられ、それが「反キリスト」であると述べられている

るということです。つまり「イエスすなわちイエシュアがキリストすなわちメシアである」という言葉は、「御父と御子」が一つであるということを示しているということであり、これは先に述べた、ヤコブが油を注いだ「石」、ヘブル語のエヴェン(אבן)は、「父」アーヴ(אב)と「子」ベーン(בן)が組み合わさった言葉であることと繋がってきます。ですからイエスがキリスト、すなわちイエシュアがメシアである、また父なる神と御子イエシュアを信じる、認めるとは、ヤコブが石に油を注いだ場所、ベテルにおいて神がヤコブに語られたお約束、ご計画すなわち

#### 創世記

28:13 そして、見よ。【主】が彼のかたわらに立っておられた。そして仰せられた。「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える。

28:14 あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西、東、北、南へと広がり、地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。

28:15 見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

という御言葉が必ず成就、実現することを信じる、認めるということであると考えられます。この世界で神がいること、神の存在を信じる人は多くいます。神に祈り、神を恐れて正しく生きようとする人も多くいます。しかし重要なのはその神が、何を思い、どのようなご計画を立て、そしてそれをどのようにして実現、完成されるのかということを知り、同意し、信じて待ち望むということです。「反キリスト」とはこの神のご計画に反対、反抗、反逆する存在なのです。ですから彼らは歴史の中で幾度となくアブラハム、イサク、ヤコブの子孫であるイスラエルの民、ユダヤ人を絶滅させようとしてきました。第二次世界大戦時に行われたナチスドイツによるホロコースト、ユダヤ人大量虐殺などはその顕著な例です。神のご計画はユダヤ人を通して「地上のすべての民族を祝福する」ものであることを「反キリスト」はよく知っているのです。ですからユダヤ人をこの地上から抹殺してしまえば、神のご計画は失敗し、完成しなくなります。ですから「反キリスト」は執拗に彼らの命を狙うのです。今日でも彼らの祖国イスラエルは常に周辺国との一触即発の緊張状態にあります。

2:24 あなたがたは、初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどませなさい。もし初めから聞いたことがとどまっているなら、あなたがたも御子および御父のうちにとどまるのです。

この「初めから聞いたこと」が、「初めに」神がこの天地を創造される前にお立てになった、神の家、神の国、御国を建てるというご計画のことでなくて何でしょう。私たちは目に映るもの、耳に聞こえる様々な情報に惑わされて、この神のご計画を忘れ去るようなことがあってはならないのです。それが「御子および御父のうちにとどまる」ということであると考えられます。

2:25 それがキリストご自身の私たちにお与えになった約束であって、永遠のいのちです。

神のご計画の完成である「神の国、御国」は、神が崇められ、讃えられるための場所であると同時に、神を恐れ、神に聞き従う者たちが「永遠のいのち」を与えられて、まさしく永遠に生かされる場所でもあり

ます。今のこの世界はやがて必ず滅び失せます。それが神のご計画なのです。しかしその後建てられる「神の国、御国」は永遠に生きておられる神が「永遠のいのち」を与えた人々とともに永遠に生きる、永遠に終わることのない国です。

## 5. 惑わし

2:26 私は、あなたがたを惑わそうとする人たちについて以上のことを書いて来ました。

ヨハネが書いたこの手紙の宛先となる教会には、当時多くの「反キリスト」的な考えや教えが、彼らを惑わそう、騙そうとしていた現実があったことが、これらの内容からうかがえます。しかしこの現実は何も彼らだけではなく、私たちも同様です。私たちが日々見聞きする情報、テレビや新聞、雑誌、インターネットから流れて来る膨大な情報は、神のご計画などすっかり忘れさせてしまうほどに、衝撃的で、興味深いものばかりです。しかし実際にはべつに知らなくても良いものであったり、自分と全く関係のないものであったりするものばかりですが。しかし神のご計画は、私たちの将来、いのちに関わる、永遠のいのちに関わる、実は人間にとって最も重要な情報なのです。もしもあなたが聖書に記されたこの神のお約束、ご計画を、非現実的な、空想話のように感じられるとしたら、それはすでに騙され、惑わされているのだということを知ってください。

2:27 あなたがたの場合は、キリストから受けたそそぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教えを受ける必要がありません。彼の油がすべてのことについてあなたがたを教えるように、——その教えは真理であって偽りではありません——また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。

ここでヨハネは少し強い言い方をしています。「だれからも教えを受ける必要がありません」と。これは神のご計画から目を逸らすような考えや教えがあまりにも多くはびこっていたことを示していると考えられます。実は「反キリスト」的な教えは、今や教会の外だけでなく中にも蔓延しており、実はこちらのほうが深刻な事態なのです。多くの信者は自分の願い、問題の解決、自分の成功、いわゆる無病息災、家内安全を求めて教会に集っています。教会の中でささげられる祈りはほとんどが誰かの問題の解決、病の癒し、誰かの祝福、安全祈願、合格祈願、安産祈願、人の幸福、繁栄を求めたものばかりです。そこにはもはや神のご計画に対する意識など微塵もないのです。このような現状を、神は喜んでおられるとは到底思えません。私たちは今こそ、神がアブラハム、イサク、ヤコブに約束され、聖書に記した神のご計画を思い、これに目を留め、神が後の世に建てようとしておられる「神の家、神の国、御国」を信じ、待ち望むという考え方、生き方を求める必要があります。それがこの「あなたがたはキリストのうちにとどまる」ということであると信じます。決して誤解しないでいただきたいことは、自分勝手に生きる「あなたがたのうちにキリストがとどまる」のではなく、「あなたがたが、キリストのうちにとどまる」ということです。私たちが、キリストのうちに、神のご計画を見つめて生きることにとどまることを求めましょう。

## 6. 義

2:28 そこで、子どもたちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、キリストが現れるとき、私たちが信頼を持ち、その来臨のときに、御前で恥じ入ることのないためです。

「キリスト」とは「油注がれた者」のことであり、そして「油を注ぐ」とは、ヤコブが御父と御子を指し示す「石」エヴェンに油を注いだ「神の家」という意味を持つベテルという場所において、神がアブラハム、イサク、ヤコブとその子孫に約束された神のご計画を指し示すものであることを述べました。ですからここで語られている「**キリストのうちにとどまる**」とは、神のご計画のうちにとどまることであり、すなわちそれは神のご計画に目を留め、その成就と完成を信じて待ち望む考え方、生き方のことであると考えられます。やがてイエス・キリスト、メシアであるイエシュアは、目に見える形で「**現れ、来臨**」されます。それは同時に神のご計画が目に見える形で実現、完成すること、すなわち「神の家、神の国、御国」が建てられることをも意味します。その時に「あなたはわたしを信じると言いながら、わたしと御父の計画について、なぜ知ろうとしなかったのだ。」と言われることをあなたは求めますか。それよりも「あなたがわたしとともに求め続け、信じて待ち望んでいた御国がついに完成したぞ。さあ中に入りなさい。」と言われたくはありませんか。

2:29 もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行う者がみな神から生まれたこともわかるはずですよ。

この「義を行う」の「義」とは「正しい」ということであり、それはもちろん人からではなく神から「正しい」と認められ、神に受け入れられる、神との関係、交わりを指す言葉です。それは私たちの努力や能力ではできないことです。何より私たちは生まれながらにして罪を持っています。その罪とは、神を知らない、神のご計画を知らないということによる、思い違い、的外れな考え方、生き方です。そして罪は全て、必ず裁かれなければなりません。人に対して犯した罪ならば、その人に謝罪して赦してもらえることもあるでしょう。しかし神に対して犯した罪は、謝罪などでは赦されません。すべて死をもって償わなければなりません。実際は私たちはみな自分の罪のゆえに、神の国に入るどころか、死をもって裁かれる、滅ぼされるべき存在なのです。しかし憐み豊かな神は、私たちのすべての罪を、ご自分の御子イエシュアに背負わせ、十字架にかけて死なせました。イエシュアの死、流された血潮によって私たちの罪、過去、現在、そしてこれからも犯すであろう全ての罪が赦されました。この事実、真実を信じる者はみな神から罪を赦されて「義」とされます。これを私たちは「救われる」という言い方をします。なぜなら私たちの罪を背負って死なれた御方、神の御子イエシュア(Ἰησοῦς)とは、ヘブル語で「救う」という意味だからです。

そして神はこのイエシュアをその死から三日目に、もはや弱ることも朽ちることもない永遠の肉体によみがえらせました。これは私たちもそのようになるという希望のためです。私たちは罪を赦されても、この肉体はやがて必ず朽ち果てていきます。それはイエシュアにそうなされたように、永遠に生きることができる肉体をお与えになるためです。なぜならそれは神のご計画しておられる「神の家、神の国、御国」は、永遠の世界であるからです。

#### 【新改訳改訂第3版】

#### マタイの福音書

6:33 だから**神の国**とその**義**とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。